

2026 年度 活水女子大学入学式学長式辞

活水女子大学に入学された新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご多忙の中、本日も列席いただいておりますご家族並びに関係する皆様方にも心より感謝を申し上げます。新入生の皆さんは、これからのキャンパスライフへ、大きな期待と希望を持って入学式に臨んでいるものと思います。

もちろん、新入生の皆さんにとっては、「大学」はまだ知らないところ、未知の場所であり、そこで出会うのは未知の体験のはずです。皆さんは、期待と同時に、これからの大学生活に対して、不安を持っているかもしれません。本学も、新しい時代に求められる大学を目指し、校名の変更、男子学生の受け入れなど、様々な改革を進めており、新入生の皆さんは、「新しい活水」を経験することになるでしょう。しかし、それは、これまで多くの先輩方が築いてこられた「活水らしさ」を無くすということではありません。むしろ原点に立ち返るということです。

活水学院は、147 年前、エリザベス・ラッセル先生という、アメリカ人の女性宣教師によって建てられました。明治維新からまだ 12 年しか経っておらず、日本が近代国家へ向けて本格的な歩みを始めたばかりの激動の時代に、ラッセル先生は、日本にキリスト教、女性の教育、西洋音楽のような新しい考え方や知識を伝えようとされたのです。ラッセル先生は、周囲の懸念や反対を押し切り、43 歳で来日し、まったく初めての国で、日本語もわからないまま、到着からわずか一週間後に、一人の生徒を相手に教え始め、それから 40 年、この地で教育を続けました。その間、多くの問題や困難に直面されたことは容易に想像できますが、同時に、大きな歴史の変動の中で、ラッセル先生は、むしろ歴史を動かす一人となりました。

「変わる」というのは、大きなチャンスでもあります。皆さんは、今、大学入学という大きな変化を迎える中で、様々なチャンスを目の前にしているのです。不安を乗り越え、そのチャンスをどのようにつかみ、生かしていくのかは、皆さん一人一人が、これからの大学生活をどのように過ごしてゆくのかにかかっています。これからの大学生活、主役は皆さん一人一人です。大学生活でわからないこと、困ったことがあった時には、遠慮なく教員、職員に尋ねてください。私たち、教員、職員は、皆さんの力となるために全力を尽くします。皆さんが悲しんでいる時に慰め、皆さんがしり込みしている時に励まし、皆さんが嬉しい時に一緒に喜ぶこともあるでしょう。あるいは皆さんが間違えそうな時に厳しく叱ることもあるかもしれません。しかし、当たり前のことですが、私たち、教員、職員が皆さんの代わりに皆さんの人生を生きることはできません。

皆さんは、自分の人生を自分で歩いていくことになるのです。自分の人生は、自分で決め、自分で責任を取る以外にありません。これから先、皆さんは、大学で様々な授業を選択し、資格を取り、職業を選んでいくことになります。また、結婚し、家庭に入る人もいるでしょう。その人生の一つ一つの選択は、最終的に自分で決めるしかありません。そして、その結果に対して責任を負うのは自分しかいません。私は新入生の皆さん一人一人が、自分の人生の主演であるという自覚を持ち、自信を持って自分の道を選び、進んでいけるような人になって欲しいと願っています。

くり返しになりますが、活水女子大学の主演は、皆さん、学生一人一人です。私が強くみなさんに願っていることは、一人でも多くの学生が、叶うならばこの大学で学ぶすべての学生が、「活水女子大学で学んでよかった」と、自分の選択の正しさを確信してくださることです。私たち教員、職員もそんな学生生活を支えたいと、日々努力しています。

皆さんのこれからの学生生活が、実り豊かで、喜びに満ちたものになるように、主のお導きと、お守りとがありますようにお祈りいたします。

これをもって学長の式辞といたします。

2026年4月2日

活水女子大学 学長 広瀬 訓